

題材名「携帯電話の利用とルールについて」 1 時間目

目標

携帯電話の問題点と正しい使い方について理解させる。

コンピュータを活用する利点（ねらい）

昨年本校で実施した、携帯電話の利用状況に関するアンケートの結果から、携帯電話のルール等を理解していない生徒が多いことをふまえて、フィルタリングの機能、迷惑メールの防止法、携帯電話の利用マナー、「話し言葉」と「書き言葉の違い」について理解させる。授業前のアンケートにより生徒の意識の変化をみる。

授業の流れ

（導入 5 分）

・携帯電話に関するアンケートに記入

（展開 25 分）

・インターネットで携帯電話に関する事件を検索させ発表させる。
・昨年実施したアンケート結果の一部をパワーポイントでみせる。
（フィルタリングについての認識が低いことや、携帯電話のルールについて保護者との間で認識のずれがある結果がでている）

（展開 20 分）

グループ討論

・メールをやめられなかった時、どうすればやめることができると思うか？
・「書き言葉」と「話し言葉」の違いを体験させる。

ICT活用場面

携帯電話の使い方、ルールについて保護者との間で認識にずれがあることを理解させる。

フィルタリングの機能について理解させる。

携帯電話を持っていない生徒もいることや、高校生の段階で必ずしも必要でないことを理解させる。

「面白い」の一言でも伝わり方が違うことを理解させる。

メールの書き言葉には感情が添付できないことを理解させる。



題材名「携帯電話の利用とルールについて」 2時間目

授業の流れ

(導入 5分)
グループ討論
・迷惑メールをもらった時にどのように対応したか？
・迷惑メールを防止するにはどうすればよいか？

(展開 30分)
・メール作業
閉じた環境で生徒のPCに迷惑メールを送信して、疑似体験をさせる。
・迷惑メールの具体例や防御方法を説明する。

(まとめ 15分)
・契約書作成
・アンケート作成
・携帯電話の問題点や、活用方法を理解できたか確認する。

ICT活用場面

携帯電話をもっていない生徒も含めてすべての生徒が議論に参加できるように促す。

迷惑メールの被害について理解させる。
生徒が興味を持ちそうなタイトルの迷惑メールを送信する。

迷惑メールの防止方法を理解させる。



成果

- ・インターネットの検索エンジンを用いて携帯電話に関する事件を調べることにより、便利な道具としての携帯電話が様々な事件を引き起こしていることに気づくことができた。
- ・フィルタリングについて学び、その必要性に気づくことができた。
- ・「話し言葉」と「書き言葉の」の違いに気づき、メールでのやりとりが負の感情を増幅しやすいことに気づくことができた。

課題

- ・準備の関係で授業実践が遅くなった。
- ・保護者との話し合いがうまくいかない生徒ほど携帯電話の利用マナーが悪い傾向がある。
- ・グループ討論についての事前準備、事前指導が必要である。

ICT活用環境等

使用周辺機器	デスクトップパソコン、プロジェクト
使用ソフト名	Out look Express B J D Internet Explorer
使用教室	情報処理教室